

磐梯朝日遷移プロジェクト平成26年度成果報告会

今年度のプロジェクト成果報告会が2015年3月14日(土)と15日(日)の両日に北塩原村(裏磐梯ロイヤルホテル「ロイヤル・ホール」)にて開催されました(今回も「裏磐梯の湖沼環境を考える会議」との合同開催)。猪苗代や裏磐梯で活動されている地域の方々を中心に、2日間で外部から47名の参加者がありました。

一日目のシンポジウムはテーマ「猪苗代湖湖底堆積物コア試料に関わる研究:とくに古環境の変遷について」のもと、猪苗代湖湖底堆積物コア試料分析によって得られた成果(気候変動, 生物生産性, 水質変化, 植生変遷, 人間活動の変遷, 化学組成の変化, 地下水の水質, 地中水の水質など)が11件の研究発表として報告されました。今回は学内の教員(長橋先生, 廣瀬先生, 藪崎先生)・院生(柴崎研・佐藤君)に加えて, 学外の研究者:公文富士夫先生(信州大), 井内美郎先生(早稲田大), 渡邊慶さん(信州大), 林竜馬さん(琵琶湖博物館), 井上 淳先生(大阪市立大)にも発表して頂きました。

猪苗代湖湖底堆積物コア試料の分析結果について, これだけまとまった成果報告が行われたのはプロジェクトにおいても初めてで, 発表内容はやや専門的ではありましたが, 地域の多くの方の知的好奇心をさらに刺激したのではないかと思います。



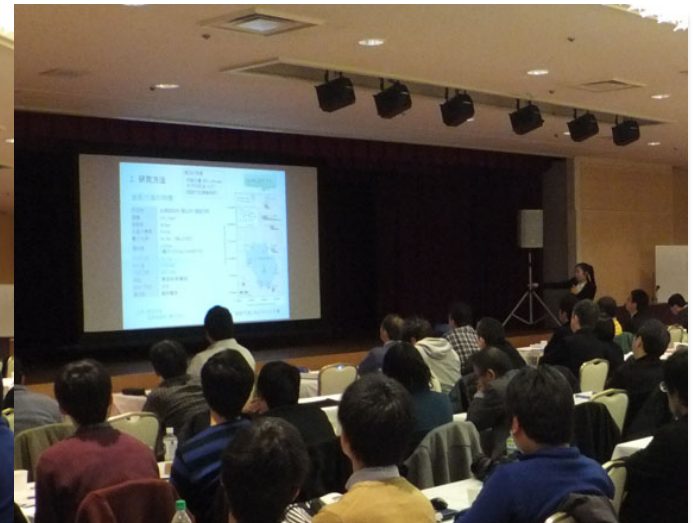
「猪苗代湖湖底堆積物コア試料に関わる研究の趣旨説明」

長橋良隆



「珪藻化石群集からみた猪苗代湖における過去約1700年間の水質変化」

廣瀬孝太郎



「猪苗代湖の湖底堆積物から抽出した地下水の水質の特徴 -2012年と2013年の結果を用いた考察-」
藪崎志穂

二日目の成果報告会では主に学生による14題の口頭発表(兼子先生と川崎先生による2題, 環境センター・福島県保健衛生協会による1題を含む), 14題のポスター発表が行われました。口頭発表は底生動物相や食物網解析, オサムシ科甲虫相, 希少植物の保全, イチャクソウ属の葉の進化, 泥流上の森林遷移など生物系の発表が8題, 国立公園の景観規制, 磐梯山ジオパーク, エコツーリズムに関する意識調査など社会科学系の発表が4題, 五色沼湖沼群の水質, 毘沙門沼の湧水地点の推定など水系の発表が2題でした。ポスター発表は山岳性昆虫や水生昆虫の遺伝子解析, 遷移途中にある環境の保全策など生物系の発表が3題, 放射性セシウムの動態, 磐梯山北部の地下水流道, 会津盆地の地下水水質, 猪苗代湖のpH, 五色沼湖沼群の水位変動, 毘沙門沼集水域の降雨の貯留・流出過程・水質変動, 長瀬川流域の土砂動態・気候変動予測, 裏磐梯地域の積雪環境評価など水系の発表が11題でした。ポスター発表は4年生の研究成果や取り組み始めたばかりの研究テーマを頑張って発表する3年生の姿も多数見られ, 昨年度同様に大いに盛り上がり, プレゼンテーションのコアタイムはあっという間に終わってしまいました。

総合討論では福島県環境センター・福島県保健衛生協会による五色沼湖沼群の湖水の化学的な成分に関する4年間の調査結果のまとめに対して多くの質問が出され, 活発な意見交換が行われました。また, プロジェクトの研究成果を来年度どのような形でまとめるのか, そして, 地域の自然環境の管理・保全方法について, どのような形で提言するのかについて, 論点や課題が出されました。



「希少植物を守ること、その成果と副作用
-喜多方市ひめさゆりの丘の事例-」

兼子伸吾



「磐梯山1888年噴火後の
裏磐梯泥流上の植物相」

石川和希(木村研)



「裏磐梯五色沼湖沼群の湖水の化学的な
成分に関する調査結果(第4報)」
渡邊 稔(福島県環境センター)・
佐久間智彦(福島県保健衛生協会)

ポスターショートサマリー



ポスタープレゼンテーションの様子



参加された猪苗代や裏磐梯の地域の方々からは、研究発表に対する質問やアンケートへの回答を通して、プロジェクトへの要望が多数寄せられました。来年度はプロジェクトの最終年となる4年目です。現在の自然環境やそれに対する人間活動の影響を詳しく知り、過去を調べて得た知見とともにそれらを未来に活かす、そのような「まとめ」を来年度末にしたいと考えています。

連絡が遅れたため、記念撮影に参加されずに帰られてしまった研究室の皆さん、申し訳ありませんでした。



恒例の福島大学関係者による記念撮影。体調不良等で2名が欠席でしたが、昨年度よりもさらに多い70名が参加しました。